

○事業所名	児童発達支援センターにこここ (児童発達支援にこここなかま 放課後等デイサービスすまいる)		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 4日 ~ 2025年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 5日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

○ 分析結果 (児発 にこここなかま)

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子療育を基本とし、一人ひとりに合った療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・療育前には、保護者とねらいを共有し、声掛けや関わり方を具体的に伝えるようにしている。 ・療育後には、ねらいに対する振り返りを行い、保護者とスタッフで話す時間を設定している。 ・家庭での様子などを聞き、療育の中にニーズに合った内容を組み込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの知識や経験の豊富さを活かし、家庭でもできる方法を提案したり、将来を見据えた情報提供を行ったりする。
2	公認心理師や作業療法士、強度行動障害についての研修を受けたスタッフを配置し、より専門性の高い療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のあるスタッフがアセスメントを行い、発達段階に合った内容を検討し、スモールステップで「できた」の経験が積めるよう努めている。 ・就学前に発達検査を行い、学級選びのサポートを行っている。 ・外部講師によるスタッフへの支援を積極的にお願ひし、スタッフのスキルアップを目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加や情報の収集などを行い、圏域でのモデルとなる療育を目指す。 ・公開療育や取り組みの紹介の場を設け、情報発信を行う。
3	保護者支援を大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも話せる関係作りを大事にし、傾聴、共感、肯定の姿勢で保護者に寄り添っている。 ・ペアレントプログラムや保護者同士の茶話会を実施し、保護者同士で学べる場を設けている。 ・保護者の仕事の都合に合わせて単独療育にも対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での保護者の交流はできつつあるため、他のグループの保護者との交流や先輩保護者との関わりなど、保護者が情報収集できる場の提供作り。 ・療育のねらいを共有し、目標達成に向けて保護者と一緒に取り組めるような内容を検討する。

○ 分析結果 (放デイ すまいる)

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者支援を大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも話せる関係作りを大事にし、傾聴、共感、肯定の姿勢で保護者に寄り添い、相談対応を行っている。 ・保護者、子どもとの三者面談を行い、目標を共有して、共通理解のもと療育を行っている。 ・コドモン(連絡アプリ)を活用し、活動の様子を写真で伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントプログラムの実施 ・茶話会や保護者会の実施 ・支援ツールの情報提供 ・就労施設など放デイ終了後の情報収集と情報提供を行い、保護者が将来の見通しを持てるようなサポートを行う。
2	公認心理師や作業療法士、強度行動障害についての研修を受けたスタッフを配置し、より専門性の高い療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のあるスタッフがアセスメントを行い、発達段階に合った内容を検討し、スモールステップで「できた」の経験が積めるよう努めている。 ・必要に応じて発達検査や心理検査を行い、関係機関と連携してサポートしている。 ・対応困難な事例に対し、ケース会議等を行いながら臨機応変に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加や情報の収集などを行い、圏域でのモデルとなる療育を目指す。 ・公開療育や取り組みの紹介の場を設け、情報発信を行う。
3	1人ひとりに合った療育を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの打ち合わせ、振り返りを行い、プログラムの作成、ねらいの共有を行ったうえで療育を行っている。 ・学校、家庭などでの様子も把握し、全体像を捉えて一人ひとりに合った療育につなげている。 ・中高生対象の生活スキルアップをねらいとした土曜療育を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より一人ひとりを知るためのアセスメントシートの見直しと活用を検討する。 ・具体的なねらいの設定と明確化を意識し、達成感を味わえるような療育を目指す。

○ 分析結果（児発 にここなかま）

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団のグループ療育のため、保護者の個人的な悩みや相談事がマンツーマンで聞けないことがある。	親子療育時に親子分離の時間を取り、個別で話を聞くなど対応しているが、毎回は難しい。 療育後、保育園等に行かなければならないなど、療育時間が限られているため、ゆっくり話を聞けないことがある。	親子療育以外の時間でも相談対応ができることや電話相談でもよいことを伝え、保護者の困りに対して柔軟に対応できるようにしていく。
2	基本的に親子療育を勧めているが、保護者の仕事の関係で単独療育が増えつつある。その際の保護者との情報共有が難しい。	保護者の都合も尊重したい部分があり、親子療育と単独療育のバランスが難しい。	土曜日などに親子療育の場を検討する。
3	地域の施設を利用したり、地域と連携したりする活動がなかなかできていない。	地域の社会資源の乏しさ。 地域についての情報収集の不足。	地域向けの勉強会などを開催し、療育についての啓発活動を行う。 地域のイベントなど積極的に情報収集を行う。

○ 分析結果（放デイ すまいる）

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者や保護者の希望に沿った利用回数、利用時間の確保が難しい。（利用回数を増やしたい、長期休暇の午前中療育などの希望に対応できない）	・療育希望者に対する事業所数の不足。	・療育の必要性と支給量のすり合わせや見直しを行う。 ・利用者それぞれとしっかり話し合い、療育の出口支援についても検討していく。
2	保護者交流の場、保護者の療育参観の場など保護者参加型の療育の場が少ない。	・年に1回しか親子療育を行っていない。 ・多くの方に参加していただけるよう工夫をした保護者会の実施ができていない。 ・将来を見据えた（高校進学や就労など）情報提供の不足。	・多くの保護者の方が気軽に参加できるような保護者会の工夫をする。 ・療育にさらに興味関心を持っていただき、一緒に取り組める内容を検討する。 ・スタッフの専門性を高め、療育の質の向上を目指し、様々な情報を提供する。
3	地域の施設を利用したり、地域と連携したりする活動がなかなかできていない。	地域の社会資源の乏しさ。 地域についての情報収集の不足。	地域向けの勉強会などを開催し、療育についての啓発活動を行う。 地域のイベントなど積極的に情報収集を行う。